TOP MUSEUM

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM

153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
Yebisu Garden Place, 1-13-3 Mita Meguro-ku Tokyo 153-0062
TEL 03-3280-0099　FAX 03-3280-0033
www.topmuseum.jp

写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて

Geneses of Photography in Japan: Hakodate

2022年3月2日（水）－5月8日（日）

ライムント・フォン・シュティルフリート《HAKODADI》 明治5(1872)年 鶏卵紙 東京都写真美術館蔵

東京都写真美術館では、2007年から初期写真に関わる展覧会を開催しています。本年は日本に写真技術が伝来した地域をとらえた「写真発祥地の原風景」シリーズ展の第二弾として「写真発祥地の原風景　幕末明治のはこだて」を開催します。

19世紀中葉に江戸時代が終焉し、日本は西洋文化を取り入れた近代国家へと向かい、幕府が治める最北端の港湾都市であった箱館は、蝦夷地（現・北海道）の統治や紛争平定、外交といった行政の重要な役割を担うこととなります。幕末期に開港すると、ロシア人より伝えられた技術を起点に写真文化が華開きます。

第一章では幕末から明治初頭における「はこだて」の歴史を写真および関連資料から概観します。第二章では、制作者に焦点を当て、「はこだて」を撮影した写真家と、同時代に使用された写真技術を紹介します。最終章では、幕末から明治へ移り変わる「はこだて」の街並みを初公開のパノラマ写真を含めた初期写真のオリジナルプリントによって展覧します。

本展は、箱館（近世）から函館（近代）へと移りゆく北方の港湾都市の文化を初期写真のオリジナルプリントによって再構築する貴重な機会です。ぜひご覧ください。

展覧会構成

第一章　はこだての歩み

第二章　はこだてを捉えた写真家と幕末・明治の写真技術

第三章　はこだて鳥瞰

各章解説

第一章　はこだての歩み

今から約3万年前頃、現在の北海道に人類の定住が始まったと考えられています。やがて狩猟や漁労だけでなく、商品性のある当地の資源、ことに毛皮や海産物による交易が盛んに行われるようになり、13世紀前後にアイヌ文化の原型が形成されます。17-18世紀には、本州から交易品を求めて、和人商人がこの地を訪れるようになり、和人の定住が本格化しました。
「はこだて」は、江戸時代には松前藩のもとで松前・江差とともに主要港として繁栄し、1802年には蝦夷地奉行（後の箱館奉行）が置かれ、幕府の直接統治の中心拠点を担います。幕末から明治になると開港により、ロシアを中心とする各国の領事館が置かれ、欧米文化の影響を強く受けるようになります。
戊辰戦争最後の戦いとなった箱館戦争を経て、1869年に蝦夷地は「北海道」、箱館も「函館」へ改称*され、1871年、札幌に開拓使の本庁舎が建てられると、北海道行政の中心は札幌へと移ります。しかし、その後も函館は北の港湾都市として、また北洋漁業の基地として、発展しました。
本章では、1793年の絵巻や箱館戦争の錦絵、1882年の多色刷木版による鳥観図など、初期写真だけでなく、多くの資料から「はこだて」をひも解きます。

*『開拓使事業報告　第1編』（大蔵省、1885年）に「（明治）二年本使出張所ヲ置キ箱館ヲ函館ト改ム」とある。

浅野文輝《函館真景》 明治15(1882)年 多色刷木版 函館市中央図書館蔵

第二章　はこだてを捉えた写真家と幕末・明治の写真技術

箱館（函館）は日本における写真発祥の地のひとつであり、箱館（近世）から函館（近代）へと移りゆく中で日本写真史の礎を築く場でした。
本章はロシア人から写真技術を習得した田本研造、開拓使写真御用掛に任命された武林盛一などこの地で写真館を開設した人々と、公務でこの地を訪れて撮影を行った野口源之助や、開拓使の依頼によってこの地を訪れたライムント・フォン・シュティルフリートなど、函館に関わる写真家たちを紹介します。
また、幕末・明治期の写真技術を、カメラや三脚、原板等の撮影機材などの史料を交え、ネガ原板とプリント制作の両面から、現代とは大きく異なる原初的な写真技術を紹介します。
本章では、人や技術など「はこだて」の写真を制作の側面から多角的に解説します。

四切判野外用組立箱 20世紀前半 日本大学藝術学部蔵

第三章　はこだて鳥瞰

1897年に函館に函館要塞置かれ、軍事機密厳守のため、函館山への立ち入りは禁止され、市中での写真撮影でも許可が必要となりました。本章は、これ以前に制作された写真によって明治期の函館を俯瞰します。

パノラマ写真では、函館山から街を見下ろした構図の写真（函館港全景）群と函館山に向かった写真（函館市街全景）群を比較することで、度重なる大火や港湾工事によって変容する街並みを確認することができます。これらパノラマに点景として写る建築物や山々は、シュティルフリートらによってクローズアップした視点から撮影されており、現在は失われた明治時代の函館の姿を知ることができます。

近代化のなかで、変わりゆく街並みやそこに生きた人々など、ミクロとマクロの両面から捉えた写真を集めました。本章では、第二章で紹介した写真家たちの作品を中心に「はこだて」の姿を初期写真によって鳥瞰します。

井田俸吉《花ゴザを編むアイヌ（女性）》
明治10(1877)年頃 鶏卵紙 函館市中央図書館蔵

出品点数

191点（第一章53点、第二章39点、第三章99点）※写真、錦絵、地図、写真機材等資料含む

見どころ

函館といえば、湾にそびえる函館山から市街を見下ろした独特で美しい夜景を思い浮かべる方も多いでしょう。しかし、函館は美しいだけの観光地ではありません。かつて箱館は、異文化圏と接する最北端の地でした。幕末に開港し、明治日本の近代化が進むなかで「はこだて」は、北海道開拓の足がかりの地として重要な役割を果たすようになります。本展は本邦初公開を含む貴重な写真作品と資料により歴史を辿り、近代都市へと変貌する「はこだて」の姿に迫るものです。

1 「写真発祥地の原風景」シリーズ第二弾、かつての「はこだて」の姿とは

東京都写真美術館では、これまで「夜明けまえ　知られざる日本写真開拓史」シリーズ(2007－2017年)や、「日本初期写真史」シリーズ(2020年－)など、日本における写真の起源にフォーカスした展覧会を数多く開催してきました。本展は「写真発祥地の原風景」シリーズの第二弾として、「長崎」(2018年)に続く展覧会となります。

早期に写真技術が伝来し、普及した都市には、その土地を写した多くの写真が残されています。本展では、膨大な写真と史料から、日本の近代化において最も重要な都市のひとつであった「はこだて」の姿を明らかにします。

田本研造《五稜郭の氷切》明治10(1877)年 鶏卵紙 函館市中央図書館蔵

2　写真がとらえた「はこだて」、激動の歴史

かつて蝦夷地と呼ばれた北海道の拠点であった箱館がペリーの来航によって開港されると、諸外国と共にロシア領事館も開設され、欧米の技術と文化が函館（箱館）に伝えられました。その後、戊辰戦争(1868-1869年)最後の戦いとなる箱館戦争を経て、箱館から函館に改名*。1871年に開拓使の本庁が札幌に移るまで、函館は北海道の拠点となり、今日の北海道の礎を築くと共に、近代都市へと発展していきました。幕末から明治を駆けた激動の歴史を多くの写真で振り返ることができることは、写真発祥地ならではといえます。田本研造による《箱館奉行所》や江崎礼二の《ニコライ像》などの作例もその名例と言えるでしょう。

*『開拓使事業報告　第1編』（大蔵省、1885年）に「（明治）二年本使出張所ヲ置キ箱館ヲ函館ト改ム」とある。

左）月岡芳年《諸国武者八景　函館港》
明治4年(1871年) 多色刷木版
函館市中央図書館蔵

右）田本研造？
《フランス軍士官と旧幕府脱走軍士官》
明治元(1868)年～明治2(1869)年 鶏卵紙
函館市中央図書館蔵

3　幕末・明治の写真技術を解説

写真を撮るという行為がスマートフォンに集約され、インターネットを通じて写真が共有されるものとなって久しいですが、20世紀末までの写真は化学によって支えられた物質でした。物質であるが故に、同時代に人の手を経て移動し、伝承によって現代に伝えられているのです。写真の起源は19世紀初頭に遡り、日本へは幕末期に伝来しました。本展では、幕末期に普及した技術のほか、日本人の多くが写真に触れるようになった明治期に主流となった技術を加え、ガラス支持体の感光材料で撮影し、印画紙にプリントする技術について写真器材などの資料を混じえて詳細に解説します。

4　本邦初公開　野口源之助による写真アルバム

本展では、1871年イギリス軍艦シルビア号に通訳として乗船して、春日丸による北海道沿岸水路の測量に同行した野口源之助によって撮影された《Esso Album》を初公開いたします。

5　パノラマ写真は語る、「はこだて」の変遷

函館山から街を見下ろした構図（函館港全景）は150年以上前から同様に用いられていました。本展では函館山に向かった写真（函館市街全景）群を加え、美しい街並みを写したパノラマ作品を多く展示します。これら各時代のオリジナル写真を見比べることで、街の目覚ましい変遷を見て取ることができます。函館山は、明治30年以降要塞となり第二次世界大戦後まで立ち入りが禁止され、測量や撮影も禁止されました。本展は明治30年以前の「はこだて」を見ることができる貴重な機会です。

田本研造《(函館のパノラマ)》 明治22(1889)年 鶏卵紙 東京都写真美術館蔵

展覧会図録

『写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて（仮称）』

B5／144ページ／2,530円／東京都写真美術館発行
出品作品図版、作品技法等のほか、大塚和義（国立民族学博物館名誉教授）、高橋則英（日本大学藝術学部写真学科特任教授）、大下智一（北海道立近代美術館学芸員）、奥野進（市立函館博物館学芸員）、三井圭司（東京都歴史文化財団学芸員）によるテキストを収録。

開催概要

展覧会名[和] 写真発祥地の原風景 幕末明治のはこだて
展覧会名[英] Geneses of Photography in Japan: Hakodate

会　期　2022年3月2日（水）―5月8日（日）
主　催　東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
後　援　J-WAVE 81.3FM
会　場　東京都写真美術館３階展示室
〒153-0062　東京都目黒区三田1-13-3　恵比寿ガーデンプレイス内
www.topmuseum.jp / 電話 03-3280-0099
開館時間　10:00―18:00（木・金は20:00まで）※入館は閉館の30分前まで
休館日　毎週月曜日（ただし3/21，5/2は開館）、3/22
観覧料　一般 700円／大学・専門学校生 560円／中高生・65歳以上 350円
※小学生以下および都内在住・在学の中学生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者(2名まで)は無料。
※本展はオンラインによる日時指定予約を推奨いたします。

監　修　大塚和義（国立民族学博物館名誉教授）、高橋則英（日本大学藝術学部写真学科特任教授）

このリリースのお問い合わせ先

このリリースに掲載されている図版をデータにてご用意しております。
掲載をご希望の際は広報担当までご連絡下さい。
＊図版をご掲載の際は、必ず作品キャプションおよびクレジットの表記をお願いします。
＊図版の無断掲載はご遠慮ください。また、トリミング、文字掛け等の加工はできません。

東京都写真美術館
TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM
〒153-0062　東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
電話　03-3280-0034 Fax 03-3280-0033 www.topmuseum.jp

展覧会企画：三井圭司
展覧会担当：遠藤みゆき／浜崎加織
広報担当　：池田良子／ 平澤綾乃／鈴木彩子　press-info@topmuseum.jp

本展は諸般の事情により内容を変更する場合があります。最新情報は当館ホームページをご確認ください。